

# 今週のズバリ こう見る

## Analysis

「ニューヨーク金は下落」、東京金は円安で高騰」というチグハグな状況は解消された。金ETF（上場投資信託）の保有残高の減少が続き、東京金はまた玉整理の段階にあるため、ニューヨーク金期近は1,530ドルまで下落、東京金期先も4,500〜4,600円まで下げられる可

### 2月限と4月限に狙いを絞る NY1,500ドル割れ回避

#### GOLD 金



岡地(株)支店 投資相談部 千葉 純平氏

投機資金が何かしらのきっかけで金市場に戻ることも十分に考えられる。それらを考慮すると、ニューヨーク金期先が1,500ドルを割り込む公算は小さいと見るべきだろう。テクニカル面で見れば、ニューヨーク金市場においてファンドの買い玉が減少し、売り玉が増えている。東京市

能性はある。ただ、長期的には今年末から来年春にかけて上昇余地が大きそうだ。現在、ニューヨーク金期近が1,500ドルを下抜くかどうか焦点になっている。しかし、金融緩和策が続く見通しで、金は株式同様、リスクオンの状態にあることは確か。今、株式市場に向かっている

場もまだ高値圏での玉整理が完了していないが、金融緩和を背景にニューヨーク金期近が1,800ドルまで上昇、為替相場が1ドル＝100円の円安になると、東京金期先は5,800〜6,000円まで上昇する可能性が高い。特に、春高習性のある2月限と4月限を安値で買い仕込みたい。

### 年内一杯円安が続く公算大 米景気の回復がドル高助長

#### FOREX 為替



(株)アトラス・ファイナンシャルサービス 代表取締役 加藤 典丈氏

今年一杯は円安トレンドが続く。米国の経済情勢を見れば判る通り、米政府は量的金融緩和策と実質ゼロ金利政策を続行、是が非でも米国の景気を回復させる意気込みで、共和党も政策を根底から覆

さない。それは、議会の「ねじれ現象」がありながら、財政の崖問題も乗り越えたことでも判る。現行の米金融緩和策は、雇用改善が確実になるまで中止することはないと考えるべきだ。

欧州でも金融緩和策が強化されており、ECBも利上げを見送った。世界的なカネ余りと超低金利が続いているなか、米景気の回復に伴い、米株価が上昇し、ドルは買われる。米国の公的債務の膨張がドル不安に結びつくとの懸念は残るものの、為替市場ではドルの強材料が先行し、不安要因は姿を消した格好だ。

が進行中。これに日銀が協力する形にあり、円安基調が続くと見たい。円安は日本企業の多くが恩恵を受けるだけに、一部で、「国民生活が苦しくなる」との意見は出ようが、世論全体は円安歓迎となり、円安基調は長期化しよう。ただし、どの程度の水準へ達するかは未知数だ。100円が目標とする向きが増えたが、為替相場に値頃感禁物であり、勢いが相場の着地点を決めることもある。

東京金期先は、2月7日の5,081円から3月4日の4,683円まで400円近くも下落したが、昨年7月から始まった上昇基調の途上にある点に変わりない。

為替相場は、一旦、1ドル＝90円に向かう円高になったが、アベノミクスを背景にした円安が今後も続く見通しで、東京金の下値は切り上がっている。また、ここ2年間のニューヨー

ク金期近の値動きを見ると、11年5月16日の1,528.5ドル、12年5月16日の1,528.5ドル、12年5月16日の1,528.5ドル、12年5月16日の1,528.5ドル

投資家にとって買いやすい環境が形成されたといつて良からう。マクロ的には、米国の金融緩和策は当面継続、リスクオンの状態に変化はない。今は、世界の株式市場に投資資金が集中している格好で、ニューヨークダウは史上最高値を5年5カ月ぶりに更新したが、この資金の一部が金市場に流れてくる

#### GOLD 金



(株)フジトミ 営業部 企画課長 角 健氏

528.5ドルで下げ止まっており、ここから大きく下げる地合はない。

したが、それまでオーバードヒートしていた市場を落ち着き、価格が下がったことで、一般

ことが想定出来る。東京金期先は、5月頃には再び5,000円にトライしよう。